

2021年度 公開保育研修会（3・4歳児） 保育をみよう 保育をかたろう

2021年10月29日（金） 3歳児

2021年11月19日（金） 4歳児

保育実践の場に身を置き、感じ考えたことについて

言語化し対話することで自分の実践理論を再構成していく。

午前中は、保育実践を他学年や他園の教諭、研究者の先生方が参観しました。保育後すぐ、保育を担当している担任や短時間勤務教員の対話「DD」をオンラインで配信し、毎日保育実践を営む身体を通して語り対話をする実際について参観していただきました。

午後は、保育室の環境や保育の痕跡を題材として、環境の意図やそれまでの保育の物語についての語りから始まりました。協議会では小グループで、保育実践で感じたことやそこから想起される自分自身の保育や保育施設組織、そのシステムなど、それぞれの先生方の問いを言語化し対話しました。10月の研修では奈良市保育総務課の山上鈴代先生にもご助言いただき、研修会は一旦終了。

研修会 第2部では、コミュニティ構築の一環で、研修会のデザインそのものについての対話が始まり、充実した1日となりました。ありがとうございました！

公開保育研修会

9:00~ 公開保育
12:00~ DD(Dairy Dialogue) オンライン配信
12:45~ 環境について探究しよう（教材研究）
13:00~15:30 研修会
・今年度の研究について
・公開保育担当教諭より
これまでの子どもの育ちと保育の振り返り
・小グループでの対話—自らを振り返る
・グループでの話題を共有
16:00~ 研修会第2部 | 異文化DD—研修会デザインについて

公開保育研修会

幼児教育における
カリキュラム・マネジメント
—学び続ける
専門家コミュニティを構築する—

組織として実践を高めるには？

中教審答申における「具体的方策」（令和3年）

- ・専門性及び資質の向上
- ・質の評価
- ・体制の構築

→「課題山積み」→持続可能？

→ 実践の面白さ、学び合う面白さを味わえる
持続可能なコミュニティを構築するには？

2 | DD (Daily Dialogue)

日々、立場の異なる人々で対話をする

○「実践」という「状況」について、実践者の身体を通して語ること

- 「何が伝えたいのか」
語ることで、尋ねられることで身体化される 語りやすくなる
- 「どうしてそうしたのか」
自分の教育観、子ども観など、自分自身の無意識を自覚する
他者の実践の語りから、自分の実践の意味を再構成していく
- 「どう育てたいのか どうありたいのか」
実践を通して他者と対話をすることで、組織としての方向性が共有される

*異質な他者との対話であるほど、自己理解は深まる

研修デザイン（案）

対話内容 抜粋

公開保育に必要な資料とは？ —当日案は何のために？

- ・保育を公開するのは、「実践理論」を表現した保育実践を身体を通して理解するため
- コンテンツを提供するわけではない
- 環境の意図については資料としてある方が良いが、「当日案」として担当教師が表現するのは何のためか？
- 「当日案」をコンテンツ（遊びの内容）で表現すると参観者はわかりやすいかもしれないが、担当教師は書いたことに縛られ、保育実践に影響を与えてしまう
- 「公開保育」に必要な資料とは？

今日の子ども達の姿 V 別 第3期 3年保育 4歳児 たんぽぽ組 担任 船橋 恵純

項目	内容
1. 保育実践の概要	...
2. 当日案の内容	...
3. 当日案の意図	...
4. 当日案の評価	...
5. 当日案の振り返り	...

(当日資料例)



ソーシャルスキル経験もねらいの一つとした 「カプラを積もう」という活動について

- 「自分なりにカプラを積む」という創造的・構成的経験を
- 「相手と向き合う態度」というソーシャルスキル経験も
- 一つのねらいとして活動として組んだ是非について対話となる
- 「子どもの育ちとしてこの在り方でよかったのか？」という活動の是非についての問い
- ソーシャルスキルを活動として組み込んでいく必要が
- なぜあったのか、というその挑戦の背景についての対話へ
- 今の子どもの育ちと、「保育活動はこうあるべき」という日本の保育文化への問いへの変換へ

参加された先生方の声

お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました！！

保育の中で「秋は自然物を取り入れたい」、「昇園に入ることほ入心」という無意識のうたに
当たり前にはなっていることと改めて明確に直ぐこと、自分の中にある刷り込みをいかに崩して
子どもの思いのバと寄せていけるかということを考え直さなければいけない。

日々の実践を見るだけでなく、先生方の意見・意識を知
る事で、コミニティ内における対話の重要性を知る事が
出来た。教育の質を上げるために、自分だけでなく
コミニティの必要性を知る事が出来、ありがとうございました。

保育者同士、伊り合)にて自分自身のことも見えてくる事がよくわかりました。
園全体で取り組んでいく大切さを学びました。

何の遊びを子どもがしてほしいか、子どものどのような
力を育てていくかを提案しながら保育をやることの大切さを
改めて感じました。